

青梅市人口ビジョンの検証および今後の方向性に関する主な意見

1 青梅市人口ビジョンの検証に関する主な意見

○青梅市ゆめ・うめ・おうめ創生本部会議

- ・西多摩地区の各自治体の転出入状況を調べたらどうか。
- ・男性は 30 から 34 歳、女性は 25 から 29 歳の転出入のデータがあると今後の検討のヒントになるのでは。

○青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会

- ・人口減に歯止めがかかっていないというのが率直な印象。今後の5年間、一段と対策が必要では。
- ・（特別養護老人ホームのような）施設があることによって、そこで働く人がこちらに移ってくるということがある。青梅のハローワークの特徴として、7割が管内の就業場所で働いている。市内で働く確率が高いのではと思う。
- ・高齢者施設には都内から通う人がいる施設もある。就業条件がその人の働き方に合っているので、そのような施設は定着率がいい。
- ・今の傾向を変えるのは中々難しい。4年経ってもほとんど同じ傾向。劇的な変化を求めるならそれなりのことをしなくちゃいけない。
- ・KPIの数字の取り方や目標値に無理があるのではないか。実態と離れてしまっているような気がする。
- ・人口減少は止まらないが、緩やかな減少が青梅にとって本当に悪いかどうかはわからない。
- ・アドベンチャーラインを観光路線という定義で誰が来るか調べたら、中央線沿線が最も多かったとのこと。統計をみると人間にとって路線はとても大きなものだとわかる。
- ・青梅市の女性の就業の種類がわかれば、ニーズが浮かび上がってくるかもしれない。
- ・4年経って、人口はほぼ推計どおりに推移している。だからといって4年間やってきたことが無駄ということではない。人口は減っていくが、こういうところが増えとか、こういうことを充実させていくとか、こつこつやっていくことがいいのでは。そういうことが反映されるようなKPIにしたらどうか。一生懸命やったことが出てくる数字にしたほうがよい。

2 青梅市人口ビジョンの今後の方向性に関する主な意見

(1) 子育て世代を主なターゲットとした定住促進に関する意見

○青梅市ゆめ・うめ・おうめ創生本部会議

- ・東部地区のみ異なった傾向がある中で、市内だけの移動の結果だとすると、外からの定住促進が図られていないように見てとれる。

・子育て施策はいろんなパターンが出尽くしている。大胆なことをやらないと、人口減少という大きな流れの中で定住人口を増やせない。奥多摩の住宅提供も大胆で、あれくらいのアピールがあてい。

○青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会

・都会に住んでいても、いずれ田舎に住みたい人はいる。その場合、中央線沿線で田舎に住みたいという人に、青梅に来てくださいというのが自然かと思う。

・子育て世代に来てほしいということだが、専門のアドバイザーに話を聞き、トップを若い人にしたらどうかとのことなので社長を交代したら若い人が来るようになったことがある。若い人を呼びたかったら、リーダーシップや全体の仕組みを考える人を若返らせると効果的かもしれない。

・子育て世代の方で、「青梅に住んでいてよかった」という発信があると、青梅を調べてみようという人が出てくるのでは。今、住んでる人の満足度が上がっているという統計があるとアピールできるのではないか。

・住んで良かったということの資料があればいい。ツイッターとかがあがるが、絶大な効果がある。

(2) 地域資源を生かした、産業の活性化によるにぎわいの創出に関する意見

○青梅市ゆめ・うめ・おうめ創生本部会議

・産業の活性化は、農林商工でいくのか、インター周辺の開発メインでそこを地域資源として生かしたものにするか、若干の手直しが必要ではないか。

・6次産業を青梅でどこまでやるか。その辺を他の計画との整合性含め検証が必要ではないか。

・人は便利な所へ住みたいと考える。都心に近くなくても仕事ができる環境、インフラなどを整備すれば人は来るのでは。

・製造業の従事者数が減っているのに対し出荷額が増えているのは、それぞれの企業がAIやRPAを使っている成果が出てきている。農林商工のどれかを外すと問題があるかもしれないが、今後5年はどれかに特化するということのもいいと思う。

・観光は交流人口ということで、週末をもっと強調していいのかなと思う。

・青梅市全体でWiFiが使えるとか、売りは大胆にしたほうがいい。

○青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会

・商工会議所では起業支援を行っている。起業したい人を呼び込もうとすると、若くて創造性のある人が来てくれる可能性がある。

創業・起業へのサポートを手厚くしてもらえると雇用の創生につながると思う。

・海外や都内では、シェアオフィスなどで創業する若い起業家達を支援するというのがある。パソコンがあれば何でもできてしまうので、青梅市での起業もできるのだと思う。

(3) 人口減少・高齢社会ならではのまちづくりに関する意見

○青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会

- ・どうやって市民を巻き込むか。市民の興味を煽って、一つのエネルギーを創出して問題を解決していくというやりかたもある。市民に重要な問題であるという認識を持ってもらわないと誰も考えてくれない。会議室で考えていても中々難しい。